

(中間評価)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群））

(実施期間：平成 30～令和 5 年度)

幹事機関：大阪大学（総括責任者：西尾 章治郎）

協働機関：東京農工大学、日本アイ・ビー・エム株式会社

取組の概要

- ・国内外の取組動向（グッドプラクティスやノウハウ等）の集約・普及を図るべく、大阪大学（サイバーメディアセンター、データビリティフロンティア機構等）と日本アイ・ビー・エム株式会社が連携して、ウェブサイトの活用による全国ネットワークプラットフォームを設置する。
- ・全国を8 ブロック（地区）に分けて幹事大学を設定し、代表幹事（大阪大学）、副代表幹事（東京農工大学）と各幹事大学による全国ネットワーク幹事会を開催する。
- ・地域ネットワーク組織の形成・強化を図るため、幹事大学が中心となってブロック会議を開催する。
- ・日本学術会議の関連諸委員会の協力のもと、全国レベルで関連調査を行い、国内外の取組動向、研究情報等の集約・発信を図るとともに、意識改革等を促進する全国シンポジウムを開催する。
- ・大学のみならず企業等の拡充を行うとともに、持続的なネットワーク形成に係る仕組みを検討する。

(1) 評価結果

総合評価	計画達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

幹事機関の総括責任者のリーダーシップの下、既存の地域ネットワークを統合し、「全国ダイバーシティネットワーク」を構築した。また、仮想ネットワークとしてウェブサイト「全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム」を創設し、高い運用実績を挙げたことは評価できる。今後は、大学はもとより企業や研究機関の参画も進め、女性研究者・技術者の活躍促進に係る企業や研究機関ならではの特色ある好事例を広く全国の大学へ普及させることを期待する。また、日本学術会議に協力して実施した大規模アンケート調査や企業対象アンケート調査を実施したことは評価できる。今後は、これらの分析結果から得られた情報をどのように活用するのか、また、当該ネットワークならではの取組として今後どのような取組を進めるのか、幹事機関及び2つの協働機関の役割分担を明確にした上で連携を密にしつつ、ネットワーク参画機関の意見を踏まえ入念に検討することを期待する。補助期間終了後も、「全国ダイバーシティネットワーク」及び「全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム」の自走化を実現する計画であり評価できる。

- ・ **計画達成度**：既存の地域ネットワークを統合し、目標の 120 機関を大きく上回る 156 機関が参画する「全国ダイバーシティネットワーク」を構築するとともに、「全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム」を創設したことは評価できる。

- **取組**：「全国ダイバーシティネットワーク」の構築、8地域のブロック会議の支援、全国幹事会や全国シンポジウムの開催、「全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム」のコンテンツの充実、日本学術会議に協力して実施した大規模アンケート調査や協働機関の企業が中心となって進めた企業対象アンケート調査などの取組は評価できる。
- **取組の成果**：「全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム」のコンテンツの充実により、累積閲覧者数が約45,000と大幅に上昇したことは評価できる。今後は、企業や研究機関の参画を増やし、女性研究者・技術者の活躍促進に係る企業や研究機関の好事例を広く全国の大学へ普及させるとともに、「全国ダイバーシティネットワーク」の有効性をさらに広く全国に周知することを期待する。
- **実施体制**：幹事機関の総括責任者のリーダーシップの下、幹事機関に設置された「男女協働推進オフィス」及び「全国ダイバーシティネットワーク事務局」、2つの協働機関、8地域ブロックの参画機関が連携し、「全国ダイバーシティネットワーク」を構築したことは評価できる。今後は、幹事機関及び2つの協働機関の役割分担を明確にした上で連携を密にし、「全国ダイバーシティネットワーク」の効率的な運営を進めることを期待する。
- **今後の進め方**：補助期間終了後も、協賛企業からの支援を含む自主経費により「全国ダイバーシティネットワーク」及び「全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム」を自走化する計画であり評価できる。今後は、アンケート調査の分析結果を活用する具体的な方策を策定することを期待する。